

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第3回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

① 雄志中学校区における新保育園建設候補地の決定について

② 令和6年度地域協議会ファシリテーション研修、正副会長意見交換の概要について

3 開催日時

令和6年8月20日（火）午後6時30分から午後7時まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委員：青木雄司、石黒直樹（副会長）、近藤浩一、竹内裕一、中島 功（会長）、
服部光雄、藤井 潔、藤井光治、丸山勝之、丸山孝子、山本久夫（欠席1名）
- ・ 幼児保育課：黒津課長、安田主任
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【井守副所長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中島会長】

- ・ 挨拶

【井守副所長】

- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【中島会長】

・会議録の確認：近藤委員に依頼

【中島会長】

次第3 議題「(1) 報告事項」の「① 雄志中学校区における新保育園建設候補地の決定について」に入る。幼児保育課の説明を求める。

【黒津課長】

・挨拶

【安田主任】

・資料1に基づき説明

【中島会長】

ただ今の説明について、質問を求める。

【山本委員】

建設候補地の周辺は冬季、風が強い。風速の測定などの検証は済んでいるのか。防風林などを作る予定はあるか。

【黒津課長】

私たちが現地を確認し、地域の皆様からもそういったお声をいただいている。候補地は雄志中学校周辺に決定したが、今後は測量調査等を行い、ランドデザインとして、園舎の配置等も含めて検討していく。その中で、地域の皆様だからこそ知っている不安材料があると思うので、そういったご意見をよく聞きながら、建設に向けて対応していきたいと考えている。

【服部委員】

建設候補地に、今は市の土砂などが置いてあるが、市の土地だと思いが間違いないか。

【黒津課長】

そのとおり。今は市の工事現場や道路資材等の資材置き場になっている。そちらについても、地域の方から様々なご意見をいただいている。資材置き場を別の場所に移し、建設候補地に保育園を建てたいと考えている。

【中島会長】

他に質問はあるか。

(発言無し)

質問が無いようなので、以上で、次第 3 議題「(1) 報告事項」の「① 雄志中学校区における新保育園建設候補地の決定について」を終了する。

(幼児保育課退席)

次に、次第 3 議題「(1) 報告事項」の「② 令和 6 年度地域協議会ファシリテーション研修、正副会長意見交換の概要について」に入る。

【石黒副会長】

8 月 1 日木曜日、ミュゼ雪小町で行われたファシリテーション研修について報告する。皆さんはファシリテーションという言葉聞いたことがあるか。ある方は挙手願う。

(数人挙手)

英語で「促進する」「円滑にする」というのが本来の意味で、司会の代わりに会議を円滑にする人をファシリテーターと呼んでいる。

集団活動を円滑に、より効率的に進めるためのコミュニケーションのスキルをファシリテーションと言う。技術的なスキルであり、具体的にいくつか紹介する。

例えば、集まっていた方に、たくさん発言していただければならないが、そのときの表情や姿勢、または一人一人発言された後に皆で拍手をするなど、皆があなたの意見を聞きたがっている、大切にしているというような、意見を受け入れる雰囲気非常に大事だということだった。

私が一番心に残ったのは「心理的安全性」という言葉で、これは不当に無視されたり、否定されたりしない、その人の存在を認める、認め合える関係性のことである。この「心理的安全性」がある集団は、非常に生産性が上がると言われている。

ファシリテーションは、コミュニケーションの技術的なスキルと言ったが「心理的安全性」を考えると、これは単にスキルの問題ではなくて、人権や一人一人を尊重する、人間関係の基本のような姿勢だと感じた。

ファシリテーターは、その場の「心理的安全性」に責任を持っている。例えば、会議で長々と自分の話をする人がいて、その一方で「話しが長いからやめろ」と言う人がいたときに、何事もポジティブにとらえることが大切になる。長々と話をした人には、その筋に大変詳しくて、熱心に皆に伝えようとしている、ありがとうございますというふうにとらえる。そして「長い話をやめろ」と言った人には、全体の進行を考えて、進行の遅れを心配して、勇気を持って発言したととらえ、その人にも、ありがとうございますというふうに、何でもポジティブにとらえる。できればその人を否定しないで、会議

を進行していくのが大切。そうすることで、意見は異なっても、その人はそういう考え方だと受入れることはできる。

質問や指名のスキルについての説明があり、例えばいろいろな意見が出たときに、「それは無理だろう」といきなり言われたら、意見する意欲が低下してしまうので、そういうことは言わずに、まず話を受け入れる。大切なのは合意形成を図るときに、その決定基準を明確にすることである。例えば、そのことを行ったときの効果はどうか、費用や時間はどれぐらいかかるのか、それによって副作用はないのか等々を考えて協議することが大事だ。そういうことを協議していくと、無理な発言をした人も、費用や時間がかかることなどに気づき、納得して他の意見に賛同することもある。とても参考になった。研修についての報告は以上である。

次に、正副会長意見交換での主な質疑について報告する。

○三和区 高橋会長

- ・総合事務所は職員も地域へ出向き、一緒に地域の課題解決に取り組んでいる。これに対し、まちづくりセンターは複数区を所管しており、非常に不便と感じる。
- ・アンケートをしても、この体制では住民の本当の声が聞こえないと思う。

○地域政策課 佐藤課長

- ・まちづくりセンターは複数区を所管しているため、きめ細かく地域に入ることは現実的に難しいと考える。職員は、自ら課題認識を持ちながら地域と関わろうと取り組んでおり、今後も粘り強く続けていくことが大事と考えている。
- ・まちづくりセンターの機能強化に関しては、「地域自治推進プロジェクト」の総合事務所及びまちづくりセンターのあり方の中で議論していく。

○大潟区 土屋会長

- ・所管事務調査資料について、1期目の委員には内容がわからない。まず委員の理解を得ることが必要だ。また、市民への説明会を開催すべきではないか。
- ・「地域自治の推進に向けたヒアリング調査のまとめ」には、全ての意見が掲載されていない。意見を公平に取り扱ってほしい。また、このまとめの公表に時間を要したのはなぜか。
- ・他のプロジェクトの情報も地域協議会に提供すべきである。また、そういったものを知る機会もあるべき。地域自治の方策だけを聞くのはどうか。

○地域政策課 佐藤課長

- ・内容を知っている方でも、一度で理解するのは難しいと思う。理解いただけるまで説明するなど、地道に取り組んでいる。
- ・アンケートに関し、地域協議会の認識がまだ十分ではないというのも一つの回答のあり方。可能な範囲で答えていただきたい。
- ・市民への説明の手法については、意見を踏まえ検討したい。
- ・ヒアリング調査の結果について、先に検討の参考にし、結果がまとまったタイミングで公表する旨アナウンスしてきたが、伝わっていなかった。
- ・自由記載欄については、相当数の意見が寄せられているため、検討の裏付けとなる主な意見について抽出・整理している。
- ・他のプロジェクトの情報については、広く市政全般について知り、地域自治区の中の課題を発見、検討していただくため、提供方法を検討する。

以上、いくつか抜粋して報告した。

【中島会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

(発言無し)

質問、意見が無いようなので、以上で、次第3議題「(1) 報告事項」の「② 令和6年度地域協議会ファシリテーション研修、正副会長意見交換の概要について」を終了する。

次に、次第4その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【井守副所長】

- ・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・委員研修（非公開）：9月17日（火）午後6時30分から
津有地区公民館 大会議室（予定）
- ・内容：グループでのフリーディスカッション

【中島会長】

以上で次第4その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第4その他「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

【小林所長】

- ・居住地区（北部・南部）入り委員名簿の配布について説明

【中島会長】

他に何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。